

研究発表もうしこみフォーム

氏名：ウ・ウユンガ

氏名のローマ字表記：WU WUYUNGA

所属：総合研究大学院大学

専門分野：文化人類学

- ① 発表のタイトル：ラクダの通年搾乳を可能にする飼育技術に関する人類学的研究—中国国内モンゴルアラシャー盟におけるラクダ牧畜民の事例から

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表の目的は、中国内モンゴル自治区アラシャー盟におけるラクダ牧畜民を対象とし、彼らがつまみ搾乳技術を明らかにすることである。具体的には、まずフタコブラクダ（以下、ラクダ）の生態的な特徴を述べたあと、牧畜民がつまみ搾乳技術およびそれに対応したラクダの飼育方法を明らかにする。その成果を踏まえ、ラクダ乳の利用と流通、販売という3つの側面からラクダと牧畜民との関わりの特徴を考察する。

搾乳と去勢、屠殺は牧畜の三大技術として研究が進められてきた。とくに、現在のモンゴル高原を対象とした研究では、搾乳や乳利用に注目したものが多く蓄積されている。そうした先行研究ではウシやヒツジ・ヤギ、ウマに関する事例が多い一方で、ラクダに関わる搾乳技術や乳の利用などに着目した研究は少ない。そこで本発表では、ラクダの搾乳とそれを可能にする飼育技術を明らかにすることを目的とする。

本研究の対象となるアラシャー盟は、内モンゴル自治区の最西端に位置し、北をモンゴル国、西を甘粛省、南を寧夏回族自治区に接している。アラシャー盟のモンゴル族は過去よりラクダを飼育し、それを依存しながら生活を送ってきた。とりわけ、ラクダはバイクや自動車がない時代に駄用とされたり、ウシを大量に飼育できない環境においては乳を利用したりするなど、ゴビ砂漠という極乾燥地において高い利用価値をもつ家畜動物である。とりわけ、近年ではラクダ乳の市場価値が上昇している。しかし、ラクダはヒツジ・ヤギ、ウシ、ウマなどの家畜と比べると繁殖時期が長い。種雄は年に一回だけ発情し、雌の妊娠期間は13ヶ月である。よって、牧畜民はラクダの生態的な特徴に応じた飼育と搾乳をしなければならない。本発表では、牧畜民らが雌を2つの群れに分け、種雄と輪番で交尾させることで毎年子ラクダを得て、年間を通して搾乳する技術を明らかにする。